臨床検査技師教育の動向*1

北 村 清 吉*2

1. 教育の制度と現況

公教育は '58 の 2 年制衛生検査技師学校に始まり、'71 の厚生大臣免許の 3 年制臨床検査技師となり、現在に至っている。臨床検査技師の受験資格取得の学校別系統は、厚生大臣指定科目を履修する 4 年制以上の大学と指定規則による 3 年制短期大学、専門学校に大別される(図 1)。これらの条件に該当する学校数は合計 109 校となっている(表 1)。さらに、大学院での指導者育成も進みつつある。

2. 指定規則と教育科目・教育時間

指定学校に3年以上在学し,その科目と時間数は基礎科目 [人文,社会,自然,外国語,保健体育]390 (実技45)時間,基礎専門科目 [10科目]660 (実習255)時間,臨床専門科目 [13科目,内330時間以上の病院実習]1,740 (実習1,050)時間(表2参照)と各学校の特色を持たせる自由選択科目330時間の合計3,120時間以上であり,大学基準の単位換算により計算すれば120~130単位となり,短期大学では短期大学設置基準で定められている93単位以上を遥かに越え過密な履修をしていることになる。

3. 病院実習の現状

7年前のカリキュラム改正により病院実習が義務化され、検査を大部分、病院内で行っている総合病院で、指導者のいることが条件となってい

- *¹ Education of Medical Technology in Japan **キーワーズ**:教育制度,教育科目,病院実習,国家試験,改正動向
- *² Seikichi Kitamura 神奈川県立衛生短期大学(全国 臨床検査技師教育施設協議会会長)

る. また,各学校と病院の間で任意契約の形で行われていて,大部分の学校は,第3学年で行い,その期間は10~20週となっている.しかし,第2次医療法の改正による検体検査の衛生検査所への外注,院内検査ブランチ化の促進により,条件に適合する受入れ病院が減少しつつある.

4. 国家試験の現状

国家試験は10科目であり、その対象となる教育科目数は基礎専門科目、臨床専門科目のすべてであり23教科に及び、学理、検査技術、検査結果の判読、病態解析等の多岐にわたり5枝択1の形式により総計200題を1日で行っている(表2)。第1~41回('95)までの合格者は126,628名であり、'90からは大学卒の科目免除が廃止され、受験者は全科目を受験することになっている。その結果は表3のような成績であり、医療職では、最低の合格率となっている。

5. 当面の問題点

臨床検査技師等に関する法律の政令の改正により制限業務である患者検査の業務が拡大し、ほかの医療職と重複して担当することとなったことによる教育カリキュラムの再編と現場の検体検査の状況に適合した教育内容の精選が必要となり、指定規則、指導要領並びに大学設置基準(大綱化)との整合をはかり、改正することが急務となっている。

また,卒後教育としての生涯研修の場の整備は 日本臨床衛生検査技師会が,また,各医学会によ る技術認定制度が進められつつあるが連携性に欠 ける部分もあり,調整・改善が求められている.

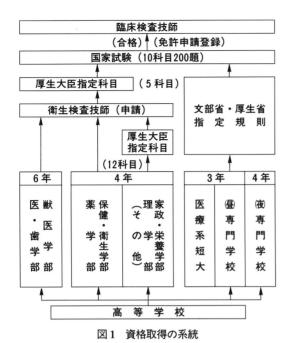


表 1 臨床検査技師国家試験受験資格学校数

			国立	公立	私立	計
指定科目	大	薬学	0	2	25	27
		保健衛生学	4	0	4	8
	学	獣医学	0	0	1	1
		その他	0	1	4	5
指定学校	短期大学		16	4	8	28
子校	専門学校		3	6	31	40
合計		23	13	73	109	

表 2 国家試験科目と出題数

	TO ENDONTING	
1	臨床生理学(生理学を含む)	26
2	臨床検査総論(医動物学・検査管理総論を含む)	20
3	臨床化学(生化学·放射性同位元素検査技術学	32
	を含む)	
4	医用工学概論(情報科学概論・検査機器総論を	12
	含む)	
5	臨床病理学総論(医学概論・臨床医学総論を含	10
	t)	
6	公衆衛生学(関係法規を含む)	10
7	病理組織細胞学(解剖学・病理学を含む)	28
8	臨床血液学	18
9	臨床微生物学(微生物学を含む)	22
10	臨床免疫学	22

表 3 臨床検査技師国家試験合格率

回数	年度	合格者数	合格率	(新卒分)				
36	'90	3,408	61.0	78.3				
37	'91	3,119	57.7	75.6				
38	'92	3,146	59.6	78.2				
39	'93	3,381	63.0	80.6				
40	'94	3,532	66.1	84.5				
41	'95	3,717	70.9	87.1				